

誤解②：
ついて行ったのだから
合意していた



事実：
まさかレイプされると
思ってもいない
(特に知り合いに)

被害者が加害者と二人きり（加害者が複数の場合は加害者たちの中に一人という状況）になぜなってしまったのかと思われることがあるかもしれません。そんなことをしたら危険なことはわかりきっていたのではないかと、二人きりになったので相手もその気になってしまったのではないかと、と思われるかもしれません。

被害者は自分が被害にあうと予測できません。顔見知りの場合はまさか相手がそんなつもりであるとは思いません。また、道を聞かれたり、手助けを求められて、親切に手を貸そうと思って被害にあってしまう場合もあります。加害者は自分が性犯罪を行うつもりであることを事前に気付かせることはしません。被害者に不審に思わせることなく、罠にかけることについては、加害者の方が上手の場合が通常です。

自分だったら、自分の身内だったら、そんな無防備なことはしない、という先入観は捨ててください。顔見知りと二人きりになっても、見知らぬ人に親切にしても、性犯罪にあわずに終わることの方が多いのです。たまたま相手が、性犯罪の加害者であったからといって、それを見破れなかった被害者の行動を問題にすることは被害者に厳しすぎます。

誤解③：
女性が犯人を挑発した



事実：
犯人は「弱そうな」相手を選んでいる

よく「被害者が派手な格好をしていたから加害者もその気になってしまったのではないか」「被害者の方が挑発したのではないか」という意見を聞きます。平成10年の内山さんの調査では、加害者が被害者に目をつけた理由は「おと